

「広島神楽」定期公演へようこそ!

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での飲食は出来ません。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など他のお客様のご迷惑になる行為はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で危険な場合がございます。着席での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について
→ 写真撮影は右図の撮影エリアで行って下さい。
※ビデオカメラでの動画撮影、フラッシュの使用は禁止します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアをお願いいたします。



8月8日のタイムスケジュール

出演：戸谷神楽団（北広島町）

19:00～開演

19:05～第一幕『葛城山』

(およそ 40 分)

～幕間 (休憩)～

20:00～第二幕『鈴鹿山』

(およそ 40 分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。本日の記念には是非ご参加下さい。また、神楽団との交流もいただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。(舞台へは靴を脱いでお上がください。)

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

とだにかくらん

戸谷神楽団プロフィール ～山県郡北広島町～

明治初期、地元戸谷龜山八幡神社に神楽を奉納するため、戸谷神楽団が創設されたとされています。先人の方々が古くより伝承されてこられた舞と奏楽は地域の人々の心に沁み、伝えられてきました。今度は私たちの番と、奉納・伝統継承に日々精進しているところです。

頃年、数名の若手団員を迎え、現在18名の地元団員で「地域に根ざした神楽団」を合言葉に活動しております。

まだまだ未熟な舞ではございますが皆様に一生懸命さが伝われば幸いです。暖かなご声援を宜しくお願いします。

第一幕『葛城山』(かつらぎざん)

大和の国を一望する葛城山(かつらぎざん)に棲み付き、天下を攪乱(かくらん)しようとする土蜘蛛の精魂が、都の守・源頼光(みなもとのらいこう)へ忍び寄ります。

時に頼光は病に伏し、頼光の美しい侍女・胡蝶(こちょう)が典薬(てんやく)の守から薬を持ち帰るところを、土蜘蛛の精魂は襲います。そして、胡蝶になりすますと、頼光に毒薬を薬と偽って飲ませます。

しかし、頼光に正体を見破られ、伝家の宝刀「膝丸(ひざまる)」で一太刀浴びた土蜘蛛の精魂は葛城山へと逃げ帰ります。

頼光は、我が身を救った宝刀「膝丸」を「蜘蛛切丸(くもきりまる)」と改め、四天王にこの刀を授け土蜘蛛退治を命じます。四天王は、葛城山へ向かい精魂の妖術に立ち向かい、壮絶な戦いの果てに成敗するという物語です。

【出演】	大太鼓 … 山本 圭介	源 頼 光 … 上 田 裕	胡 蝶 … 吉 野 剛 二
	小太鼓 … 奥 迫 光 洋	碓 井 貞 光 … 若 狭 義 文	土蜘蛛の精魂 … 仲 野 敦 史
	手打鉦 … 上 田 壱 都	卜 部 季 武 … 下 田 宏 大	
	笛 … 上 田 晃 平		

第二幕『鈴鹿山』(すずかやま)

鎮守将軍・坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)は、第50代桓武天皇の勅命を受け、摂州鈴鹿山の鬼人征伐に向かいます。

その頃、鬼人の頭・犬神丸は手下の夜叉丸に和田翁の娘・あやめ姫をさらいに向かわせませんが、鈴鹿山に向かう途中の田村麻呂によって姫は救われます。その時、夜叉丸は田村麻呂との立ち合いで力及ばず、田村麻呂に降伏し、家来になることを願ひ出ます。

そして、家来になった夜叉丸は田村麻呂を鬼人の住む岩屋へ案内し、合戦の末めでたく鬼人を征伐するという物語です。

【出演】	大太鼓 … 山本 圭介	坂上田村麻呂 … 上田 慎也	夜 叉 丸 … 仲 野 敦 史
	小太鼓 … 奥 迫 光 洋	和 田 翁 … 上 田 裕	犬 神 丸 … 若 狭 義 文
	手打鉦 … 水 野 功 樹	あやめ姫 … 藤 堂 幸 男	大 獄 丸 … 下 田 宏 大
	笛 … 吉 野 剛 二		

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。